

秋田 理事長からの報告

各位

拝啓

関東平野では水田の早苗の緑が逞しさを増す季節となりました。皆様にはご健勝にてご活躍のことと存じます。お陰をもちまして3年に亘る研究の成果を実現するため「一般社団法人・日本コンテンツ機構・CPO-JP」を4月1日に立ち上げることが出来ました。5月17日には、これまでの沖縄、仙台に続いて岡山県瀬戸市を訪問し、武久市長・桑原副市長及び市の要職の方々にお目に掛り、事業の中核である「デジタルコンテンツ・シティー構想」を説明・陳情して参りました。

その後、市当局から大きな関心を寄せて頂いております。総会後は経済産業省にも陳情した結果、「構想」実現に向けた「経産省研究会」の発足が現実味を帯びてきた所です。日本のコンテンツ産業の維持・発展に寄与するため今後とも執行部一同一丸となって取り組んで参りますので、各位に置かれましては引き続きご指導ご鞭撻下さいますようお願い致します。

梅雨本番の不純な天候が続きますが、皆様のご健康と事業の発展をご祈念申し上げます、「機構」設立のご報告とさせていただきます。



敬具

平成24年6月吉日
日本コンテンツ振興機構
理事長 秋田 敏彰

鈴木 技術委員長からの報告

技術委員会からは、活動内容に加えて、技術的な内容から気になるコンテンツに関するニュースを交えながらご連絡させていただきます。

■ 今月の活動(技術委員会)

・ロードマップの可視化
様々なタスクを実行して行く中で、技術委員会での活動は連動する内容が多く、また協力して進めて行きやすい様に可視化しました。

・CPO-JP.net ドメインの取得
正式にスタートしましたので、<http://www.cpo-jp.net/>のドメインの取得と各メンバーに向けてメールアドレスの発行を行いました。HPでの情報発信に向けて準備中です。

ドキュメント中心の作業が続きますが、まずはITを活用してまずは内部から情報が豊かな組織へと注力して行く予定です。

■ 気になるニュース(技術系)

#1 インテルXeon Phi 発表、1枚で1TFLOPSを超えるメニーインテグレートドコア コプロセッサ

Intelは、とても効率良く開発をしているところがとても注目すべき点ではないかと思います。Xeon Phi 製品は4月から発売された新しいCPU (Ivy Bridge)と同じ22nm プロセスで、3-Dトライゲートを使ってPCIe接続するボード上に「50以上」のコアを搭載しています。

Intelは、必要に応じてカスタマイズしたものを生産する事もできましたが、今は中心となるCPUの製造を活かして他の事にも転用するというアイデアに注目しています。

特にx86のプログラミングとの互換をうたっており、映像業界での活用の壁もかなり低い感じがするところが私たちからも注目しています。

参考先:

インテルXeon Phi 発表、1枚で1TFLOPSを超えるメニーインテグレートドコア コプロセッサ

<http://japanese.engadget.com/2012/06/18/xeon-phi-1-50-1tflops/>

#2 Tips:クライアントとのH.264映像をチェックする場合に

H.264で書き出した映像で課題になっていたのが、視聴環境によってガンマが変わってしまうと言う問題です。MacのQuickTimeでは、自動的に認識して元のガンマに近い状態で見ることができますが、Windows側で適切なプレイヤーは無いかな…と探していました。

そこで、Chromeのブラウザにドラッグ&ドロップして再生すると、拡大・縮小もでき、かつガンマも元の映像に近い状態で見ることができます。

クライアントに新しいソフトを導入してもらうのは難しいですが、Chromeなら手軽に入手でき、かつ拡大縮小できるメリットもありますので、是非活用して頂けると良いかなと思います。

#3 講演:BlackMagicDesign新製品セミナー(白組の鈴木として)

\$2,995という話題の新製品のシネマカメラの話もあったのですが、今回の主題として「機材を持てる時代」というタイトルでこれからの時代はどう変化するのか?について、白組の鈴木として講演をさせていただきました。

製品の低価格化=持てる時代と言う事ではなく、機材を「自分たちで所有する事」によってプロとしての「成熟度を高めていこう」というメッセージです。

製品を商品化されている方々は常に感じている事だと思いますが、世の中に商品としてリリースしていても購入者は50%使いこなしてくれれば良い方だと思います。ただ、それは今までの時代でありCPO-JPのコンセプトの様に「情報共有」が豊かになると、その使いこなす度は比例して増加して行く事だと私たちは考えています。アーティストとしても使いこなせる事での満足度は高くなると思いますし、また経営者側の立場としてもうれしいことだと思います。

「情報共有」と「使いこなす」これがとても重要な時代だと思います。

ブラックマジックデザインNAB2012新製品説明会

<http://invite.blackmagic-design.com/nab2012presentation/>

■ 気になるニュース(コンテンツ系)

#4 ハリウッドの映像コンテンツを共有できるUltraVioletという規格/技術について

Blu-rayの売り上げは少しずつ伸びているのは、DVDの販売減少のスピードには追いついておらず、日本の統計資料を見ても同じ状態なのです。そこでUltraVioletでは、利用者の所有権を管理することで物理メディアを通さずに映像コンテンツを共有する方法を提供しています。

先日も、スマートフォンユーザーがタブレットを持っている場合に、タブレットで映像を見ている比率が徐々に増加していると言うのも、こういうアイデアに繋がったのかと思います。

重要な点は、この分析力が日本と海外の大きな違いに思えます。統計資料としては、両国ともしっかりと出していますが、それを多角的に把握できている点がとても興味深い点です。

その一方で日本ではリッピング行為を違法として進めています。お客さんがより簡単に手軽な環境を提供せずに、ただ規制だけをしても売上げの増加には繋がらないのではないのでしょうか？

また、統計資料によるとBlu-rayの売上げの6割近くが固定ファンによる物で、ファンの人たちは熱心に買い続けている傾向にあり、そういう人たちはそれをバラまこうという気持ちは少ないのではないかと感じます。音楽でテープと言うメディアが登場した際に、ファンは周りの人にファンになってもらおうとテープで貸し借りしていましたよね。このアクションをきっかけに色々な音楽に触れた人も多くないのではないのでしょうか？

ハリウッドのスタジオの視点は、大規模な運営だけでなくこういったミニマムの視点でも物事をきちんと見ようとしているところに、私たちは学ぶ部分は大きいと思っています。

先日のSONYとPanasonicが有機ELパネルの製造でコンビを組むというニュースもあったように今は仲間割れをしている場合ではなく、何が良い悪いだけの判断ではなく、お金が循環する仕組みが健全に機能する事がとても重要に思えます。

コンビを組むというコンセプトは、CPO-JPの誕生のきっかけにも近いのではないのでしょうか？

参考先:

ハリウッド映画スタジオに見る保護と開放のバランス

ー加速するUltraViolet。日本ではどうなる？

http://av.watch.impress.co.jp/docs/series/avt/20120622_541694.html

米国のタブレット利用がスマホユーザーを中心に拡大、コンテンツ消費意欲も旺盛

<http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/NEWS/20120611/401282/>

当法人へのご意見等は下記の事務局までご連絡下さい。

吉祥寺オフィス: 〒180-0003 東京都武蔵野市吉祥寺南町4-4-13 一般社団法人 日本コンテンツ振興機構 事務局

TEL:

email: info@cpo-jp.net